

8次改訂に向けたこれまでの経緯

- 平成23年9月に、京浜三港で「京浜港の総合的な計画」を策定〔次期港湾計画の基本となる計画〕
- 平成25年度を目途に、港湾計画をそれぞれ策定することを、京浜三港で合意
- 目標年次は、平成30年代後半

検討方法

- ①学識経験者や港湾利用者等で構成される「港湾計画調査検討委員会」を別途設置し、検討を行う。
- ②大規模地震対策施設の計画等については、地域防災計画（素案）の内容を踏まえ、8次改訂に先立ち、前倒し（一部変更）を検討していく。

検討体制

東京都港湾審議会

（東京都港湾審議会条例により、港湾計画の調査・審議を所掌）

○構成委員

- ・学識経験者
- ・港湾区域に隣接する特別区
- ・関係行政機関の職員
- ・港湾利用者
- ・東京都議会議員

東京都港湾局

港湾計画調査検討委員会

（港湾計画の詳細検討を行う）

○構成委員

- ・学識経験者

港湾審議会委員のうち、右のとおりとする

(50音順・敬称略)		
氏名	所属	職名
苦瀬博仁	東京海洋大学大学院 海洋科学技術研究科	教授
下村彰男	東京大学大学院 農学生命科学研究科	教授
高橋重雄	独立行政法人 港湾空港技術研究所	理事長
三村優美子	青山学院大学経営学部	教授
森地茂	政策研究大学院大学	特別教授

- ・港湾利用者
- ・関係行政機関の職員

※必要に応じて実施

船舶航行安全対策検討調査委員会：船舶の航行・操船等に係る専門的な検討

スケジュール

〔H24年11月9日〕港湾審議会

- ・改訂の進め方
- ・改訂の視点



〔H25年3月〕港湾審議会

- ・一部変更



〔H25年11月〕港湾審議会

- ・中間報告



〔H26年3月〕港湾審議会

- ・8次改訂の諮問・答申

パブリック
コメント

※港湾計画調査検討委員会は、平成24年度に2回程度、平成25年度に3回程度開催予定

＜東京港を取り巻く状況と改訂の視点＞

【東京港を取り巻く状況】

＜国際コンテナ戦略港湾の選定＞

- 東日本のメインポート機能の維持
- 日本のハブポートの実現
- 東アジアの国際ハブポートの形成

＜東日本大震災の発生＞

- 地震・津波対策の必要性の再認識
- 地域防災計画の改定

＜MICE・国際観光拠点の形成に向けた取組＞

- MICE誘致
- 観光需要の取込
- 水辺空間の賑わいの創出

＜利用形態の変化＞

- 在来貨物の取扱の減少
- 木材関連施設等の利用状況の低下

＜環境への取組＞

- 環境確保条例の改正
- 都市開発・港湾機能拡充への対応

＜オリンピックへの対応＞

【改訂の視点】

【物流】

- コンテナ基幹航路の維持拡大
- 交通ネットワークの強化・交通円滑化
- 貨物集荷力の強化、ターミナルの機能強化

【安全・安心（防災力の強化）】

- 耐震強化岸壁の拡大・被災者輸送の強化
- 津波・高潮対策の強化 ○港湾BCPの策定

【観光・交流】

- 国際的なビジネス拠点、MICE・国際観光拠点の形成
- 客船誘致の促進・機能強化 ○海上交通ネットワークの強化

【利活用・効率化】

- 低未利用地や水面利用の見直し
- 施設の利用転換

【環境】

- 港湾施設のCO₂削減 ○廃棄物等の処分場確保
- 水質改善、緑・水辺空間の確保

【オリンピック関連】

- オリンピック開催に向けた対応